

かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課

住所：神奈川県厚木市七沢657

TEL：046-248-6682

※野外施設の情報は、ホームページでも紹介しています。

野外施設自然情報

自然環境保全センター 生き物

検索

自然環境保全センターの野外施設には、身近な自然を観察する場の自然観察園(昭和57年オープン)と、樹木一つ一つをじっくり観察する場の樹木観察園とがあります。樹木観察園は約50年前(旧林業試験場時代)に整備されました。野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、植物や野鳥、虫たちの興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。

この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を掲載しています。

<気になる生き物>

●早春の小さな花たち

春に大人気のニリンソウやキクザキイチゲのような華やかさはありませんが、自然観察園ではたくさん見られたちよっと地味な春の植物をご紹介します。ユキノシタ科のネコノメソウの仲間です。自然観察園では毎年3月頃に4種類が見られます。小さな足元の花に、来年の春からもぜひ注目してください。

<ネコノメソウ>

谷戸の湿地のようなジュークジュークと湿ったところに生えます。卵型の葉は対生で、丸いきょ歯があります。

<ヤマネコノメソウ>

日陰に生育するため、林の中を通っているやや暗い観察路で見られます。葉は互生で、ネコノメソウより丸い形をしています。葉や茎に毛があるのが特徴です。

<イワボタン>

沢沿いに生育します。紫色っぽい葉から中心の花に向かって黄緑色のグラデーションになっていて、群生している様子はとてもきれいです。ミヤマネコノメソウとも呼ばれます。

<ヨゴレネコノメ>

イワボタンの変種で、同じく沢沿いに生育します。イワボタンと比べると雄しべのやくが赤い色をしています。



ネコノメソウ



ヤマネコノメソウ



左:イワボタン
右:ヨゴレネコノメ



●カエル合戦

毎年、冬眠から目覚めたカエルが産卵時期を迎えると数日間、一斉に池や沼に集まります。メスを求めてオスのカエル同士が入り乱れる様子は「カエル合戦」と呼ばれます。

自然観察園で一番早く産卵するヤマアカガエルは例年だと1月下旬から2月頃ですが、今年は3月1日にカエル合戦が確認されました。「ココココー」と鶏のような声が谷戸に響き、そのあとには粒状の卵が見られました。アズマヒキガエルは3月11日にひも状の卵が産んでありました。カエル合戦の様子は見られませんでした。センサーカメラには、メスがオスを背中に乗せたまま産卵場所を目指して歩く姿がうつっていました。

さらにはセンサーカメラにタヌキがヒキガエルをとらえる様子も見られました。ヒキガエルの皮膚の突起からは有毒物質が分泌されているのですが、タヌキは食べることができたのでしょうか？



池を目指すヒキガエル(3月3日撮影)

<最近の話題>

●まゆから出てきたものは…

冬の間、葉が落ちた雑木林などの小枝の先に鮮やかな緑色の繭を見つけることがあります。ウスタビガの繭で、中に入っていた幼虫は夏に羽化するので、ふつう、冬に見られるのは空の繭です。

春、ウスタビガの繭（清川村で採取したもの）から出てきたのは…、なんとたくさんのはちでした！ヒメバチの仲間、ウスタビガの幼虫に卵を産み付け、幼虫が繭の中でさなぎになったところを食べつくして、成長したハチが繭に穴をあけて出てきたのです。この繭からは23匹のはちが出てきましたが、数十匹出てくることもあるようです。腹に長い針のような産卵管があるのがメスです。自然観察園で見られた繭の中にも寄生されたものがあると思われま



1つの繭から出てきたヒメバチの仲間



ウマノオバチ(5月15日撮影)

寄生するハチということで、もう1種類。こちらは自然観察園内で見つけ、体長の何倍もあるしっぽ（産卵管）にびっくりして思わず写真撮影したウマノオバチです。15～20cmはあろうかという産卵管は、木の中に隠れているシロスジカミキリというカミキリムシの幼虫に卵を産み付けるためのものです。どのように幼虫を探し出して産卵するのか、とても気になります。

寄生する昆虫と、される側の昆虫。不思議な生態を持つ昆虫たちの関係はどのように成り立ったのでしょうか。どんどん興味がわいてきますね！

ミニ観察会に参加しませんか？

ボランティアの解説員とともに野外施設の生き物を観察します。ぜひご参加ください！

*毎週日曜日・祝日に開催しています。

*申込不要・参加費無料

*当日の13時に本館前に集合（約2時間）

自然環境保全センター（旧自然保護センター）では傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた、傷ついたり弱ったりした県内の野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を收容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を昭和53年から行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載していきます。

<平成30年1月～3月の受け入れ実績報告>

受付件数の多かった上位種			主な救護原因					
			<鳥類>			<哺乳類>		
1位	タヌキ	11件	ガラス窓などへの衝突	7件	疥癬症（かいせんしょう）	9件		
2位	ヒヨドリ	9件	ネコなどに襲われる	7件	交通事故	2件		
3位	キジバト	8件	交通事故	6件				
4位	ツグミ	4件	釣り糸（針）や防鳥ネットなどに絡む	3件				
			悪天候（春一番）など	3件				
5位	フルマカモメ	3件	ネズミ捕りなどの粘着剤	3件				

<平成29年度 礼状の贈呈式>

平成30年2月25日（日）下記のボランティア研修会の前に長年にわたりたくさんの魚を寄贈していただいた伊従様に、その貢献を称え感謝の気持ちを伝えるため、当センター所長 稲垣 敏明より礼状の贈呈式を行いました。

伊従様からは、「今後も続けます!」とご家族を代表して熱い想いを伝えていただきました。当センターで過ごす野生動物たちにとって、エサのバリエーションが増えることは、楽しみが増え健康管理においてもとても大切なことです。

他にも果物や野菜、処方食など多くの方に支えられています。皆様の温かいお気持ちに感謝いたします。



<平成29年度 ボランティア研修会>

当センターのレクチャールームで公益財団法人日本鳥類保護連盟の藤井 幹 調査研究室長を講師としてお招きして「神奈川県に生息する野鳥について」のお話をいただきました。

受講した37名のボランティアからは、

- ・話の内容が具体的でわかりやすく、良い勉強になりました。
- ・日本でみられる鳥類について知ることができました。その中でも、神奈川県でみられる種類の多さが意外でした。
- ・日本人独自の色の表し方が鳥の名前に表れていることを知り、いにしえの人々が自然と共に生き、それを大切に思う心が伝わってきた。

などの感想をいただきました。

貴重なお話、どうもありがとうございました。



外来種

ハクビシンの 受入終了しました

え!



当センターだけの記録では、1981年（昭和56年）以降、36年間で413頭（成獣193頭、幼獣187頭、不明33頭）を受け入れてきましたが、環境省の「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」にも掲載されていて、農業被害もあることから、平成30年4月1日よりハクビシンの受け入れを終了しました。

ここでは、間違いやすいタヌキ、ハクビシン、アナグマの特徴をご紹介します。

○ 救護対象種

タヌキ



- 目のまわりが横に黒い
- 足は細くて短い
- 体は薄茶色
- しっぽは約17cm

✕ 受け入れ
できません

ハクビシン



- 鼻筋が白い
- 足は細くて短い
- 体は灰褐色
- しっぽは約40cm

○ 救護対象種

アナグマ



- 目のまわりに黒い縦線がある
- 爪は長く、足は太くて短い
- 体は茶色
- しっぽは約15cm

種名： ハクビシン

学名： *paguma larvata*

分類： ジャコウネコ科

漢字名： 「白鼻芯」や「白鼻心」など

名前の由来： ひたいから鼻にかけての白斑が特徴で名前の由来になったと言われています。

頭胴長 約63cm 尾長 約40cm 体重 約3kg

原産地は台湾や中国南部などの東南アジアとされています。かながわの自然図鑑③哺乳類によると県内では、1958年に山北町で初めて確認されました。夜行性で木登りが得意の本種は、現在では神奈川県全域で確認されていて、家屋の天井裏や床下などで休憩をしたり、春から冬にかけて子育てをすることによる糞尿や騒音の被害が出ています。また、雑食性で果実などが好物のため、農作物にも被害が出ています。

救護原因の多くは、交通事故や疥癬(かいせん)症などの病気や罠に捕まりケガをすることです。